令和３年（2021 年）11 月　依田林業新聞　第 59 号

依田林業新聞

発行所
（有）依田林業
塩山事務所
総務部

難しい木の伐倒方法とは

「難しい木の伐倒方法」と聞いて真っ先に思い浮かぶのが、風伐倒、雪折れ、曲がり木の処理ではないでしょうか。これらの立木には、大きな力が加わっているため、判断や伐り方を誤ると、木が突然大きく動き、災害を誘発する危険が潜んでいます。安全に処理するには、どんな伐り方がよいのでしょうか。代表例を１つご紹介します。

「V 形カット」方法

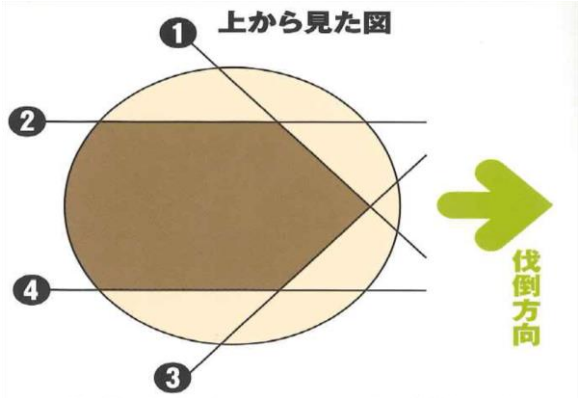
★メリット★ 安全処理優先な伐倒方法

〇ガイドバーが挟まれにくい
（挟まれても外しやすい）

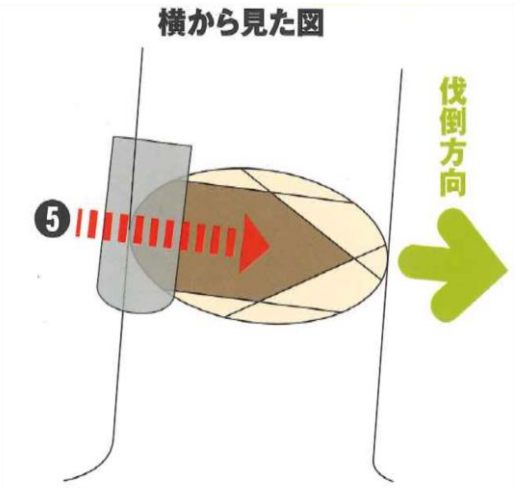
〇比較的ゆっくり伐れる

〇伐倒中裂け上がりにくい

〇ツルを軸に回転させることが可能で、かかり木を回避しやすい



①～④の順番にチェーンソーで切り込みを入れる。切り込みはすべて同じ高さに。残る部分がホームベース状（濃色部）になる。
①と③のカットは木の傾き（伐倒方向）に対して 45°程度とし、両カットの交点（ホームベースの頂点）は、幹内部にくるようにする。斜めに切るのでガイドバーが挟まれにくく、もし挟まれても先端（①・③の交点付近）だけなので、脱出も容易。
②と④のカットは樹芯から 10cm程度を目処とする（小径木の場合は不要。21 頁参照）



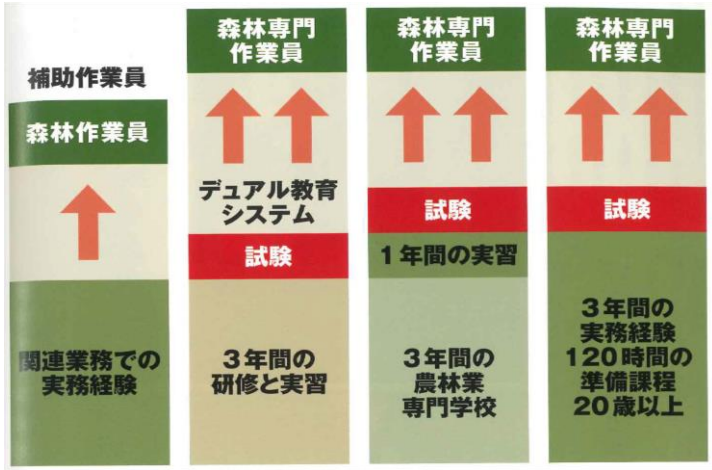
最後に追い口に相当するカットを入れる（⑤）。図中①～④と同じ高さで、幹の後ろ側からホームベースの頂点に向かって切り進めると、木にかかっている引張力が徐々に解放され、受け口の開口部がないことから比較的ゆっくり倒れてくれる。

心に響く一言

人よりも下か上かではなく、
過去の自分よりも前に進めて
いるかが大切だ

WLC トッププロに学ぶ究極の安全とは

WLC とは（世界伐木チャンピオンシップ）のプロのことを言います。日本とオーストリアは、チェーンソー作業が多く、傾斜地条件で、年間素材生産量もほぼ同じですが、4 倍以上の死亡災害発生率差があります。その差とは、圧倒的な伐倒動作の反復訓練にあります。トレーニング機械による、実際と同じようにチェーンソーを持って練習できる環境が整っています。林業労働災害を減らすため、政府が次のような対策を進めてきました。チェーンソー教育の質的向上です。



図にあるデュアル教育システムとは、オーストリア、ドイツなどで普及する教育課程のことです。

現場での実技実践を企業等職場で学び、理論・実技は林業専門学校で学ぶ二元教育です。ポイントは、「森林マイスター」（「森林専門作業員」の上位資格）所有者じゃないと指導できないことです。単なる経験に頼った指導、見よう見まね、自己流とは違う研修内容となっています。こうした取り組みを重ねて、死亡事故災害を防いでいることがよく理解できます。日本でもこうした対策を広めていくことが大切になっていくことでしょう。